繪入
好色一代男
七
WA 9
3
7
東京圖書館
禁閲覧
門
類
京乙
函
一
架
一
號
八
冊
好色一代男 8冊 WA9-3 07-001
国立国会図書館

WA2-216301/22

好色一代男

四十九歳
五十歳
五十一歳
五十二歳
五十三歳
五十四歳
五十五歳

そのまゝ喜遊ハ物むつ
浦原右のる浦事
本社らくあるひ
今のかゝる数集時の事
人のさめるとゝ銀
彦町より状ゆる事
江戸より百二十里
諸分の月帳
彦町本の梵物
ひとゝくさの狂篭
月ちゝやうづ
彦町の夕雪鴻原の曙

月録

好色一代男 8冊 WA9-3 07-002
国立国会図書館

[illegible]

[illegible]

[illegible]

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

賜て、長崎の風情、天津しの妹なれば、色とい、色しよ
の乃ふ、ほ、ほ、千鶴利休もじ人、ゆ生を、ら、ほ、しかく
艶を作り、こ、ほ、ぐ、ほ、ぐ、所ハやりして、都を洞い河ゆ、ほ、ほの
ぐ、ほ、ゆ、酔ひ、ほ、ぐ、ゆ、世、ほ、ゆ、金銀銀紙、ほ、ほ、ゆ、
両ほ、ほ、ほ、

かゝぶしく。其方ゆ戻りぬ。七左方ゆ手紙を屋ら。世そみを
為八。手と花ひたを。いさあ。是非ゆとゆせゆ。あかぐりて日ゆ
の神ぞく。いうあとゆ。後く分別き。八めゆやうにゆを。じすく八
そそ。抓ゆく。其時。脇ゆ切てやりて。ゆ一注さ方ゆ。ぐくゆ。
いうゆを。芳宿と。世そ。ゆ。ゆ。世く。膝枕。へ。さて。を命ゆと。投ゆ。
関くゆ。ゆ。ゆ。而ぞと。尾張の大臣ゆ。ゆ。ゆ。切て。鬱ゆと。を
目ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。を。ゆ。ゆ。ゆ

未社らく拵び

昔しの人は神のかはらの今の玉まきて上様の家の
風俗を唱へ行ふことは衣裳の物ごとに絵事はすべて人は
ものなりと素仙法師の語りめ方の記かけ〻を撰こ新すき
きと白縮子の袷は将軍の雪信は秋の鹿を書せ見はしも
てのを歌公家京八人の遊く書世界の懸物は希こ見を
心もうく玉章いろは女かな色ばとて京をいるしとかるる
ぐ京の色ばう絵かは新なる絵ばこ世四人切る絵風俗と
ずいぶん物はおどろうあ人も見く来てのこの生そう世
したきく物は者ばたてこの人の人は程の大阪風玉は源一
郎むくとは布色の編綱は四月人の数紋筆は薄嵐の

まづい織羽織はこ絵うくまんぐ物きに鳴天鶴織の裏とた黄
町人こ一度えぜ在の大腸指とこ一度おい絞と懸浜の
右錦ちい〻く柄長く金の買貫うの嵐色の糸玉京
麗は色草の巾芝瑪瑙の玉唐木細工の根付扇も十二
本拵者の浮世絵こ〻ぐの異紙運赤編の袋足帯中ぬきの
細緒とら数大草履は笠杖とせて名の紙を散の作
う絵ぐ〻ぐりはく元祖帝冠の鹿の浴衣
芝物横鬼褌の〻ぐき器をなき人ゆく拵はいばと看雀の
ち共湯の中事とも四〻く妹赤紙も番〻と色元志見
身ろあ〻ぐたうえと女日世えか風呂とあて〻ぐ〻の
未社とこの行め草ら〻ちそばく生め鬘麦の採活数みか

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

さて髪を
髪を
髪の
髪の
髪の
髪の

さて髪を髪ゆ成く下帯をかく沈いかを是九人ゆ
ゆ
うゝじて八文字屋の二階ゆのぼりて さぐぐ一町のなり成
やうて笑ーの事京中のうぐぐ者の七寄合ゆ色ー
ゆ七軒綱帯ゆ四方切くむーこゝろゆ出せど花屋の
二階ゆ大黒恵美酒を指出沈毛を見くゆ一屋の
ゆくゆ鬢小網の髪を生ど庭を清い炮烙ゆ的解
を北の出せば障ゆ三社の託宣をあます又ひゆり
かゆ抵を出沈吉時ゆひい鬢灯蓋ゆ火さもして
ゆ白髪ゆ花屋かゝ佛ゆ巾美せて出せどゆ花ゆ
行祝ゆを出沈八文字屋ゆ赤板ゆをゆ花ゆり
牛房一把ゆ鬢ゆ稲ゆ大小指ゆ出せど手結ゆ

髪枝くゆえを生て髪ゆ沈屏ゆ注連縄ゆて
出せど行の先ゆ胡麻油の通いを付て出沈ゆ七鳥門
ゆ美くゆを指山せどむゆひゆ十二文の包物を投る
北かゝ掃彩木ゆ絞ゆーまくゆ出せど南ゆ障ゆ
ゆ吾子ゆ花ゆ業ゆ利用日やゆの石揚ゆを
ゆ書て髪ゆ沈中の二階ゆ籠天蓋花ゆの
道奥を出せど法ゆ大鯛ゆ揚屋町ゆ長日出る
ゆ沈ゆ命ゆ男衆の髪ゆ表ゆ出くゆ宣ゆ
三所の二階を新髪ゆて古今番成髪ゆ毛成
ゆ真ゆ新ゆて茶屋ゆ程ゆ行ゆ大
道ゆ出くゆ髪ゆ沈ゆの腰ゆ髪ゆ沈ゆ

藤山ハいたしとくこうとく面白かるべき成立墨ぐやむ事
なし。こ主成今乃事ハ為ハ物程乃事を乃ぶ屋尖
のとくいつ迄聲をとめて見せ世と薬側乃中程の
揚屋見世より。を又ぐさみ乃入金代拾ノ匁ハ四月乃髪
と眼鏡とあ者て一歩ら用てをし。ふ情主乃戸迄
雨乃ごとく表乃前ハ誰ハ乃ぐ者ハ。ハ事社乃藝
尽しと見とく屋ハこう程ハ石浦都ノ人あるやハ詠
捨なるとも者て人乃笑ハ主図ハ一人ハ主ハ書晴乃
ぢちひき。紙屑拾ひ集て。ひまを乃帰ハ

人のたゝぬしこう銀

ひろく先に帰なきまゝにと言葉をうけ女子に平賀らをて
何の用かと見ひ出ばかりこうしく名書をなき文をうつ懐
ゆさしゆをもひさず逃くゆく心えうき事ハ色ぐ
滝川に恋をする者ひ来てこまやかに西年待事ひうれうが
うきとし宿に帰てみれば恋ハ逢しに少変明ひ辻行燈に三世べ
ばかり事共ひのきに滝川が文ひ一ぶ書てこれ
ひおくひ深く余をとる程に書てたくうのをとこ男見慢し
使ひし者に恋ハ語をも侍ひ行ぐ所事もうるふ
おをこかひ化ばかりて人を去文ぶうしや世上に若き者も
ひほをきとく社者に驚き夢きゆどうし世人ひうやかをと

武せどく合点のゆのとなりて思ひ戒ひうそ
ひの物の思ひとりて時ひ行まで思ひ
を文をかはまりてはいとあはなし何として
節ひうしさひとびを絶ひ
もまを文ひの高ひを長ひくく文をひ一ぶ客ひを状と
人ひ男ひとを絶く事ひ中ひ伝ひ
彼月かくひ程ひ文ひん引き長ひ絶ぶ
泡授ひハ月ひ庄屋ひ異ひかりき人ひ
い三ぶひの泉ひ一ぶ貧ひ滝ひ世ひ長後ハ月ひ
寝くを新ぶ乳ひとをハ長ひ抱き
そまひ今日ひみえまをひ何やかや黄ひて垂くかをひ

むこびに方でも座敷さし方第一の心中あり、やわらかみ小麦と豆
とくいこしやうかうかうして、主婦まづ二俵出すも運び出し親
を乃方ゆ本婦ぶ入とつけまい藝すでよくして百行出豆日所ゆも
進上ア千芋瓦茄子までも天滿つそ出繕ごうとの乳ゆ
入やうゆ主と物と奉ものの裏仁和寺の堤が三出て水ぶ入ると四つ
てゆそ飛ぶぶ出情ひと男法ゆして屋ぶ代表食て関さとの
あまとやひゆ思ひ三ゆ第一世とゆ関て懐ともゆ一ごゆ
出い華ものしとう稼しきゆ事遣しとでもいぶん
ゆして武時考段乃人物るつて時世とゆ元関しゆ扁ゆいき
賜ゆ主と文ゆしゆ抵ゆ作いゆ書てうゆ出ゆ座ものア程
ゆ教ハとものつ今青ゆ米部座ゆ主ゆて物ゆ落ち賜ゆ

さす盃と注ぐゆゆ持ゆ俄ゆ腹いもしてうゆゆ合大どん京義
けて行く茅つけえ彩代乃ひ新して庶吹ゆ捨く老ゆ低婦
灯さ世雷源乃入口ゆ対亜く赤所ハ世とゆ新対乃育尾う
もしいとゆ大臣ハもとの心のう俳乃中ゆ子を明喰主文ゆいゆ深
入ゆすぐゆうひとくきく老と出座ものア程ものと事ハ
ひもて一度作てうゆ事ゆ世とゆ廣俵乃いゆを別せ
ゆゆ美酒乃ゆすぐもしと逃しゆハゆ接とものゆ代そ
かゆハゆ主ゆ第ゆて老ゆ対ゆとうゆ世そ色ゆ座ゆ行ゆ
御懐ゆ形ゆ右く大角豆食乃美漢ゆ子結しとゆ喰て真ゆ食
元ゆつゆし古独とゆて心受ゆ月乃ゆ英用何乃事ゆそ世ゆ
所ハ世とゆ事ゆ大臣ハ独しゆ座ゆ寺ゆ色て主乃ゆ

いろ花と見て、まづ女情こゝろ動きうそぶく程の性情通なるべく扇を祝して序をなす。是と何とも思はぬ人の羨む者らしきを生涯小野ゝの利ハ何程か活る物とゝ成て人水ぶ懸らしかる者も支えて貴物か成どゝ情くうるに成

女実か名代かくまでも色ハ花も事成者ハ四度も見べあるべくから正月の人用毋心の書簡ハいつまでも所へ行ぬ為に成出して幕ハ仕まハ仕毋の通こゝの方か姉ハ支と父ぐゝハいかゝしハ支ハ成ゝ心ハ程か盛盛なるなき身かもとゝ打首合かゝく進ゝ上ゝ余人とハかせぎ行ゝ色ゝ日借の金子ハいかゝなるもとくきを

ゝりゝ色くゝ色ゝ和合ゝ

さす蛮八百二十里

雨も時雨も袖とぬるる間山の雁が音帝盛なんとれ
葉かいさ秋の張弓八人衆の大家物兵人の毛鞘持ぶんと毛
出立も陰陽の神を乃ちうきわ法ひて世を程の毛多毛
男衆や月やり水行ど宇津の山越ゆ乃ぼり諸鳥原へ乃
傳ふかなとおゆ石も三条通の毛色の法六条懸もり
ちりを引ぶ〻ぶ〻ぶ〻

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

三嶋ゟハ絶て、樫の原まで投し、ゟ、こしの国を亜の
関の戸を越て、武州の野の亜草の在所、浅草の事者、
つゝて、北表の吐し、関うし、新板の絵画し、表紙ハ三浦ゟ
又と、濃そめ紙より色ゟそまり、絵の乱れ、ゟ、殺めさきゟ
け、君紙抓めとゝ、六人亜の山入、金竜山を目南ゟ、浅草川の二挺
豆、駒形堂を、ゟ、みなし、七日ゟ、尾ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、
原名所の野三ゟ、ゟ、ゟ、三野、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、
乃第座ゟ、身ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、
ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、ゟ、

好色一代男 8冊 WA9-3 07-014
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

諸分の日帳

一ツ　寸戸

日帳　風気薬

一ツ

ねこの茶

ねこの茶

ねこの茶

[illegible]の西は声聞遠えて見もじを天瀬の又角分れる淵の
程へと出る等人見を紅市角とふと多の川て弐日ホのうまれて式里
うとく角せと見南ホて小ぎ[illegible]しゆくかるとく毎月見を[illegible]
四ぐさみぞうしかと角内男ぞんの[illegible]れもっよく美しく四人
三月四日八住吉屋長四郎方へ出て唐津八庄分れ見八ちょの
魚ごしもちひの客や[illegible]の肉八[illegible]より汐干潮見
うりせ貝などを[illegible]拾ひておいめさきから神めらはと志
はらしき四人ホん四日八いぞ[illegible]ホて出ホのハや男ホあひ
し動のあホあるの外九[illegible]紙一枚書し名の[illegible]
一札ばそひ遣しかと角ホ[illegible]八日発ホ[illegible]
さいろいホごしは七日八茶本屋ホ西しと井筒屋り

千日寺
[illegible]
[illegible]
八[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きっハを[illegible]上の底ホあひし八日を同しに一座九日八冊人の十
三ホあるわ子日寺へ石塔と志心ざし仕し十月八詰ろ毎持
ホて鮑屋の右高と中ろ絵わし十一日八桁屋ホて情て細干
底ホ初ろ見八ホ[illegible]ホ山角ホ内あひ[illegible]かあ退ぞ
吟味の上あひ十三日八宿ホ取し荷積屋の浪ホ四ぞ対
あそらしい硯箱出来ホ七遣しかと角ホ[illegible]の風来の物好ホ又布
川の粕ざを西ろうホ後ろ[illegible]八ま人気ホ[illegible]
[illegible]ひ初て[illegible]文を書ま[illegible]角ぞ[illegible]
角肌ぞ十四日ホろ風ぞ事九四人出しホ五て出しと庄
角ホ[illegible]人懸ら見ぞ八ぞまぬ肩尾ホて[illegible]ろく進び
何の子細もなくい一日二日西くちょんま人一巻ホ合く

好色一代男　8冊　WA9-3　07-016
国立国会図書館

好色一代男 8冊 WA9-3 07-017
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

賭ごと

旧藻て濁世の怪竜

悪ハざ小ちよの通わらしめ、ばくろ、金性の男色を形ばいう祢三百両の金や書き遣出しべ、ばくの肩尾、侍色の出水近き、一里みゆえて酒計飲系の者、色ら作しくハれ、ハどうきあるの、かくなしべ、ずるの果の、ゆく末我歌ある世ゝかりも一事と長ぶ書屋へ刺刀ゆ事をあ、ーとせ一年ゝび塚の著恵のごもしゝ我ら心みそま祢基恩のごく賭ごと兵名の五人死ぎハめかく異月ばくこ和義の脊花の五ほるくゝく湯水をきりべ、ばるく延宝五の年八日の曙ゆ室ーくなりめ情やはを又ハるるーふるく

物やハるるゆかしらく行義かんしして廣ゆ結てより懲ゆ勝ゆ人五次柔の形諸事るるくとく芋の文を人の見紙五の次ぶり色ハ賭ゆを次ぶの書て書月の商の心ゆ次、ましして初るの生合ゆハるる紙一屋と叶ゆ五ぐ叶ゆ月事ゆを、第載ゆ行るて萩の神伍ゆぐ物静ゆ詠りて雪分衣ハどゆ第しべの祢板の中ゆ形を育せ次下他窟より外を賭ゆず五ゆ紙を情ずるるしべ出く度数ゆ去ぐくるるる次葉山の年ーるる様子るる第ゆ見次ハ流るるゆ水流るして書板一焼すゆ中ゆて、ず紙ばるるるる髪泉持ハかくるるる雲物なる色常くば山人勧の外ハ馬まても人ゆるを撮る世次、まして

萩の神伍

好色一代男 8冊 WA9-3 07-018
国立国会図書館

客まの日の基所に居く、彼ゆを作法ゆ門ゆでし、
基身ゆ一ゆ、くうゆうえくゆ、ゆでゆ男ゆゆうるまで
ゆくれゆひゆゆゆ基ゆ二とせゆほゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
越後町の舟宿の口に鳥、ゆもりて、座敷頭の位牌、龍生
源の芳方、西鶴の溢衣、脚ゆ下の一重、竿の行ゆ連
そこゆゆ、ゆゆ揺く行水の裸身ゆ影ゆ、久米の仙ゆ
事成色ゆ、美味の手代表ゆ、ゆゆ、釣行、焼売、
ゆめゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ、ゆゆゆゆ押ゆゆゆゆゆゆ、ゆゆ湯殿り
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

此時のうれしさ。これは君七代まで。太夫冥加あまるぞかし。二階
には久都といふもの二人上下まで吟味ありて揃へし昔妻
あんまの所作手に笑先引さきらうんぜこしめいと声てちやはきかる
こ覚は聴天目線のせて暑間の酒に浮き我は流てそろくおろせば世
の中心へ入て感じ。三段の蔵き喉通るる七曲くさが宝経ぬ跡しきは色
引て身を浮く前へば浪山林と一房書きは是にて小壺に成て絡るこゑ
又乱し是よりかかつ二階に世をは手引て久都に杖付れ舞ふ
坊主此胸のつまるときすもとうきしげう中にまで重ねてそこつ其下まで
其やうがんざん色々でらくやし。て今さくさめく内にも皆に思ひ見て
あくませ。かしこは素目のみえぬ者ども是しめ帰りけ背縁をきき
太夫の黄金ふとうるくときすりて居間に寄草とやわせ置

新町の名ゐる鳥原は曙

濃薄の、ゆき上下ゐ、茅小紋の羽織物小脇指の拵、常とは
かつり、すこし智恵の、ゐるやうゐしてゐる世の人とも思はぬ
波波めで見てこゝ小三郎屋の門前の、れんぢゃ行義、さて今日ハ
名聞の、敵將衣かつ袴こゝ来て、みゑ事、命のせんぐく、すぐ
ぬまきくで山水の、多人もちろうさの剪灯新話の、ゐるゐ、
きて、ゐるの左手ゐ新弱ゐ、庵と題させ、深くゐの、各
ゐぬがこのうへ、見ハとあ、ゐらうどいかすいとき日ゐ、ゐ、
まして、やさの間、きぐ、まて、うつくしく、彩渡り、ゐ里と行も
をつて、ゐ、見や寂光の都、遊ゐ金吾の、長持、ゐ、ゐ
間屋ゐ、出入やわらは、ゐ、桐の、ゐ、ゐ、ゐ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

石ぶとともゝ山まいりとて、ふ柴折くゞ屋焼炭雪たうーくゞ山碑
のうらゆ交野さんやを踏ゆ淀の小橋ハ夢こゝ鳥羽の造
幅合兵ごやと同嘆ーかどうく四ツ塚の茅屋のみちとあく
きくき造ーも湯までいまくゞ身ぶるくハ水のまゝとゞく
聲こゆ伊勢誠ゆ一とせ森ぶ道へそゝて駕籠者
殺せー鄙也もゞはうとて倉小の宣ゆーく星の
うすき戎酒屋冊陸ゆ小兵清方ゆ行ゞ帰の人海
興ゆ千見世ゆ出て造山ゆ見ぬ小ゆ造ーもゞのがり
ゞ橋れもゞまちゞーもゞまの山を伝らもーゆ見ぬ
まーてゞ伝ごゞーまゞ門を出くゝて出ゆ茅屋よ
ばうんくゞゆ三文字屋ゆ人ゞやゞゞ狂詠の行ーゞ

面行ハ何去川ゞ松嶋の曙樽浮のゆ山ゆ戎餐清彩
さゞゆハ新町の賞ゞ見捨ー基見代すぐゆ鳴原の
紅明ごまゞ唐あをうゞ世ゞゞうんゞ元ゞ茅屋
茅屋清方ゆ五ゞ見ハ稲荷の行燈消かゞゆ物ゞ
うゞ釜ハ者ゞゞ若倉の松華ゞ焼ゞ中橋ゆ
俗見ハゞゞ和ゆ歌山江合の身清ゞ人のゞゞ
ゞ見ゞゞ名張ゞ今ゞ何ゞゞゞ対
云捨別ゞ行ゞゞゞ名張ゞ車ゞ
豊ゞ裏ゞゞゞ行人ゞゞゞゞ文
舟ゞ射馬三芳山作ゞ屋ゞゞ男
狂作ゞゞゞゞゞゞ人ゞ橋懸ゞゞ橋合ゞ

好色一代男 8冊 WA9-3 07-022
国立国会図書館

好色一代男 8冊 WA9-3 07-023
国立国会図書館

好色一代男　8冊　WA9-3　07-024
国立国会図書館